



損保ジャパン日本興亜

## 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 様



### 全国営業部門の働き方変革へ

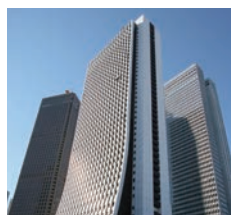
半年で6,000台のスマートフォン支給と業務コンテンツの拡充  
それを支えたSecureBrowserの実力

### 損害保険ジャパン日本興亜株式会社

自動車保険・火災保険・地震保険・海外旅行保険など幅広い商品を扱う、国内屈指の損害保険会社。国内だけではなく、アジア・北米・欧州など32か国・地域、211の都市で事業を展開している。2015年10月より、サイバー攻撃関連の損害を補償の対象とした「サイバー保険」をいち早く販売開始するなど、顧客の変化にあわせて商品・サービスを提供している。

同社では、従業員一人ひとりが、働き方・時間の使い方を根本から変える「ワークスタイルイノベーション（働き方の変革）」を進めており、部門や職場の特性、個人のワークスタイルに応じてテレワーク制度、シフトワーク制度を導入するなど、

革新的な取り組みをしている。多くの従業員がフレキシブルに使えるよう、制度設計をきめ細かく見直した結果、利用者は大幅に増加しているという。また、その数々の取り組みは、各業界から高い評価を受けており、第17回テレワーク推進賞「優秀賞」など、数々の賞を受賞している。



本社所在地  
新宿区西新宿1-26-1  
URL  
<http://www.sjnk.co.jp>

### 働き方変革チャレンジ

2016年度より、業務プロセスやシステム基盤を刷新する「未来革新プロジェクト」をスタートさせており、デジタル技術を取り入れることでさらなる業務の効率化を図っている。6,000名いる営業担当者の業務効率を上げるべく、導入されたのがスマートフォンを使用した「すきま時間の活用」だ。損害保険ジャパン日本興亜の営業担当者は、全国の幅広いエリアで活動するため、業務特性上、移動時間が多いことが業務効率向上の妨げとなっていた。そのため、移動などのすきま時間にも多くの業務ができれば生産性を高められると考えた。

「すきま時間で仕事を行うことで、時間を創出

することができます。業務効率向上のほか、お客様に接する時間も増やせるのでサービスの品質向上にも繋がりたいと思いました」そう語るのは、今回の導入計画の企画を進めたIT企画部 企画グループ 特命課長 神谷智紀氏だ。



損害保険ジャパン日本興亜株式会社  
IT企画部  
企画グループ  
特命課長  
神谷 智紀 氏

### 導入

#### 第17回 テレワーク推進賞 「優秀賞」受賞

テレワーク推進賞は、テレワークを普及している、日本テレワーク協会が実施している賞。損害保険ジャパン日本興亜株式会社が受賞した優秀賞（テレワーク実践部門）は「テレワークを導入・実践・定着させ、経営効率の向上、ワークライフバランスの向上など有益な効果を出している企業・団体」を表彰の対象とする。

ワークスタイルイノベーション（働き方の変革）に対する様々な取り組みが評判となり、受賞となった。

### チャレンジ

- 営業社員のすきま時間の活用による働き方変革
- 全国6,000名へのiPhone展開
- セキュリティと利用コンテンツの拡充
- 安心して利用してもらうための社内教育
- 検討から導入まで6か月というスケジュール

### 実現方法

- SecureBrowserによるセキュリティと多くのWebコンテンツ利用の実現
- 社内教育で「デバイスを落としてもデータは落とさない」を強調し利用促進
- VPN搭載のSecureBrowserで社内アクセスも同時に実現
- オフィスWebと同じUIで展開と利用普及を速く実現

## スマートフォン活用における課題

スマートフォンの活用を浸透させるためには、スマートフォンから、業務に必要な多くのコンテンツを使えるようにし、幅広い業務をこなせるようにすることが重要だと考えた。また、今回の導入に関しては、モバイル端末で仕事をするということを踏まえた社員教育も行った。導入準備を担当したSOMPOシステムズ株式会社 IT システム本部クライアントサービスグループ 主任システムエンジニア 山田秀徳氏は次のように語る。

「スマートフォンは肌身離さず持つものなのでどうしても紛失・盗難のリスクは伴います。今回のスマートフォンの導入では“デバイスを落としても、データは落とさない”ので安心して活用してもらうということをコンセプトにしてシステムを設計しました。そして、そのことを初期設定マニュアルの一番上に明記しました。セキュリティを堅牢にして

あるので、安心して持ち歩いて働き方を変えていくと、社員の方々に示したかったんです」



SOMPOシステムズ株式会社  
ITシステム本部  
クライアントサービスG  
主任システムエンジニア  
山田 秀徳 氏

## ソリューション導入効果

多くのコンテンツを利用でき「デバイスを落としても、データは落とさない」。このコンセプトの実現を支援したのが「Soliton SecureBrowser」(SecureBrowser)だ。SecureBrowserならWeb ベースのアプリケーションであればオフィスで利用しているUIをそのまま利用でき、コンテンツの拡充を図れる。また、キャッシュや閲覧ファイルのデータは自動消去されるため、端末にデータは残らない。この特長に加え、決め手となったのが導入スピードの速さだ。いくつかの製品を検討したが、中でもSecureBrowserの導入スピードは抜きん出て早かったという。これはSecureBrowserがVPN機能を搭載しているため、社内コンテンツへのアクセスも同時に実現できたことが要因である。働き方の変革の展開スピードは非常に速く、当初より6カ月程度での導入を想定していた。そのため、短期間での導入を製品の選定基準としていた。2016年4月ごろから検討を始め夏ごろには先行店と呼ばれる全国の支店から無作為に選ばれた3、4店舗での試行を開始し、10月からは6,000名の営業に向けて端末の配布を開始するなど、短期間で導入を完了した。

現在、スマートフォンはG Suiteによるメール・スケジュールの他、Web化された社内の掲示板やFAQへSecureBrowserでアクセスし、チャットやスマートフォンのカメラ機能を使用したビデオ会議などにも活用している。今回の導入により、これま

でのシンクライアント端末やフィーチャーフォンであった悩みが解決され、すきま時間での情報取得やコミュニケーション活発化に繋がった。面白い試みとして、同社ではユーザーがアプリのダウンロードを自由にできるようになっている。重要なデータはSecureBrowser内で扱い、便利だと感じたアプリはSecureBrowser外で自由に追加できるようにすることでそれぞれの使い方に合わせたカスタマイズが可能となっている。

「強固なセキュリティがあってこそ、できることだと思います」と山田氏はSecureBrowserのセキュリティ性能を評価した。社内の評判も上々でワークスタイルを変えられたという声も上がっているようだ。

「営業部門がセキュリティを考えながら、業務を行うのは非効率的だと思うんです。セキュリティリスクのことはIT部門が担当するので、営業担当者は“この端末で仕事をしていけば安心なんだ”という考え方を持ってもらって、担当業務に集中してもらいたいです。そういう意味でもSecureBrowserが入った端末は良いものなんだと伝えたいですね」(神谷氏)

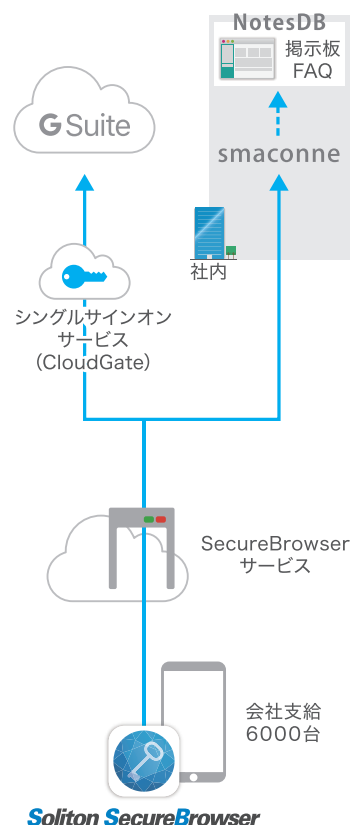
今はまだ、スマートフォンから使える社内コンテンツの数を絞っているが、今後はモバイルだからこそ活かしていくコンテンツの導入を検討していく予定だ。

営業部門のさらなる効率化を図るべく、導入後もヒアリングを行い、ソリトンシステムズのソリューションを活用していくそうだ。

## Soliton Secure Browser のポイント

- 安心して使えるセキュアな設計
- Web アプリへのスムーズなアクセス
- 専用ファイル Viewer によるセキュアなファイル閲覧
- VPN 機能搭載で社内 Web へもアクセス可能

## イメージ図



- 検討から3ヶ月で導入  
Browser / Gateway のシンプルな構成  
で短期間での導入を実現
- リモートアクセス以外の導入ツール  
コミュニケーションツールとしてメッ  
セリアプリを導入したほか、NotesDB  
ベースの社内掲示板や FAQ にもアクセ  
スできるようにしたことで、コミュニ  
ケーションの活性化に繋がった

※ CloudGateは、株式会社インターナショナルシステムリサーチの登録商標です。

※ smaconnеは、株式会社ベストコミュニケーションズの登録商標です。※その他の掲載されている社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。



株式会社ソリトンシステムズ <http://www.soliton.co.jp>

〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-4-3

TEL 03-5360-3811

大阪営業所 06-6821-6777

福岡営業所 092-263-0400

名古屋営業所 052-217-9091

東北営業所 022-716-0766

札幌営業所 011-242-6111